



令和7(2025)年度 病虫害発生予報 第1号

令和7(2025)年4月18日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

春は様々な病虫害が増え始める時期です。予防と早期発見で被害を防ぎましょう！

予想期間 4月下旬～5月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量は平年並か少ない(±～-)見込み。
- (3) 対 策 ・ 出穂や開花の状況をよく観察し、麦種ごとの防除適期を逃さないよう、防除を徹底する。
- ・ 不稔粒が多い場合は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。
- ・ 薬剤を複数回散布するときは、前回とRACコードの異なる薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース No. 2 \(麦類の赤かび病\)](#)、[防除のポイントNo18](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比194%)。(+)。
- ・ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量は平年並か少なく(±～-)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- ・ 取り残しの過熟果は発生源となりやすいので適期に収穫する。
- ・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、放置せずに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- ・ セイビアーフロアブル(RACコード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比315%)。(+)。
- ・ 向こう1か月の気温は高く(-)、降水量は平年並か少なく(±～-)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・ アフェットフロアブル(F:7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(ほ場率：平年比56%、株率：平年比46%)。(一～±)。
- ・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比107%、株率：平年比125%)。(±)。
- ・ 向こう1か月の気温は高く(+)、日照時間はほぼ平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 早期発見のために着色前の未成熟果を観察し、表面がサビ色になる幼虫の食害があるか確認する。
- ・ 1割以上の花で成虫の寄生がみられる時(要防除水準)には、ディアナSC(I:5)等を散布するすることで被害拡大を防ぐ。

- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19、アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト コナジラミ類（黄化葉巻病（TYLCV）、黄化病（ToCV））

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 140%、葉率 257%）（+）。
・ 向こう 1 か月の気温は高く（+）、日照時間はほぼ平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努め、適切に防除する。
・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ トマトでは黄化葉巻病の耐病性品種を作付けした場合でも、黄化病の被害やコナジラミ類の甘露による果実等の汚れが発生することがあるため、コナジラミ類の対策を実施する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 トマト うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 125%、株率：平年比 217%）。（±～+）
・ 向こう 1 か月の気温は高く（+）、降水量は降水量は平年並か少なく（±～-）、日照時間はほぼ平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 密植を避け、葉かきをこまめに行い通風と日当たりを改善する。
・ 予防を主体に、アフエットフロアブル(F: 7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。

8 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い。（±～+）
・ 向こう 1 か月の気温は高く（+）、降水量は平年並か少なく（±～-）、日照時間はほぼ平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・ 発病株は伝染源となるので、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。
・ 予防を主体にペンコゼブ水和剤（F: M3）等を散布する。発生が見られる場合は、ダイナモ顆粒水和剤（F: 21、27）等を散布する。曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [タマネギべと病の発生に注意しましょう！](#)を当センターHPに掲載中。

9 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない。（-～±）
・ 向こう 1 か月の気温は高く（+）、日照時間はほぼ平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

10 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	アブラムシ類	平年並	やや多	きゅうり	べと病	平年並	平年並
トマト	灰色かび病	平年並	やや少		うどんこ病	平年並	やや少

【 季節の病害虫防除対策 】

○水稲の移植時期における病害虫対策

箱施用剤を使用し、いもち病や紋枯病等の病害やウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の害虫の発生を抑制しましょう。特に常発地、多発地では、積極的に使用しましょう。

○いちご親株の管理

本ぽと親株の管理作業を分け、本ぽからの病害虫の持ち込みを避けましょう。

○なし ナシ黒星病

果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、DMI剤を散布しましょう。昨年多発したほ場では、芽基部病斑が多くなる可能性があるため、特に注意が必要です。また、開花期から展葉初期に降雨が多く、開花から2週間以内に黒星病の発生が散見される場合は、多発の危険があるので注意しましょう。

[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中です。

○かんしょ サツマイモ基腐病

本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和7(2025)年4月現在、全国36都道府県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。

[サツマイモ基腐病に注意！](#)を当センターHPに掲載中です。

○トマト・なす等 トマトキバガ

本県のトマトでトマトキバガによる被害が確認されています。茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗します。ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。

[令和6\(2024\)年度病害虫発生予察特殊報第1号\(トマトキバガの誘殺について\)](#)を当センターHPに掲載中です。

○水稻 イネカメムシ

イネカメムシの越冬状況調査を実施した結果、足利市、栃木市、佐野市、小山市、壬生町、野木町の7市町で越冬を確認しました。越冬が確認された地域では、今年度、必ず出穂期頃と、その7～10日後(乳熟期頃)に薬剤で防除しましょう。また、越冬が確認されなかった地域においても、発生が懸念されるため、定期的にはほ場を確認し、早期発見、適期防除に努めましょう。

[植物防疫ニュースNo.1\(県南部でイネカメムシの越冬を確認しました\)](#)を当センターHPに掲載中です。

[カメムシ防除作戦のホームページ](#)も御確認ください。



○水稻 スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

スクミリンゴガイは、県内では、足利市・小山市・野木町の排水路等で発生が確認されています。もし、本田での発生を確認した場合には、移植苗の食害を防止するため、次の対策をとりましょう。

- ・水路で越冬した本貝の侵入を防止するため、取水口・排水口に網を設置(水路に発生している場合)。
- ・田植え時の薬剤散布(本田に発生している場合)。
- ・本貝の活動を抑制するため、田植え後の浅水管理(本田に発生している場合)。

その他の防除方法は、農林水産省の[防除対策リーフレット\(【春夏編】ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために\)](#)を御確認ください。

【農薬の安全使用等】

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・薬剤で防除する際には、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○農薬適正使用の徹底

- ・農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報(予報期間4月19日から5月18日 4月17日 気象庁発表)

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- ・高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10	30	60
降水量	40	40	20
日照時間	30	30	40

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

